

令和2年度 第1回那覇市総合教育会議議事録

署名人 喜屋武 裕江

市長 城間 幹子

1 開催日時 令和2年11月25日(水) 14時30分～16時00分

2 開催場所 那覇市役所 10階 1001会議室

3 出席者 城間 幹子那覇市長

田端 一正教育長

教育委員：本仲 範男委員、喜屋武 裕江委員、平良 浩委員、仲本 千佳子委員

4 協議事項

「第3次那覇市教育振興基本計画(素案)について」

(1) 第3次那覇市教育振興基本計画(素案)の概要

(2) 計画案における協議テーマ

① ICTを活用した学校教育(GIGAスクール構想の実現)

② 学びや育ちの拠点となる学校

(3) その他

5 出席職員

生涯学習部：山内部長、田端副部長

(総務課) 仲程課長、平良副参事、新里主査、平良主査

(生涯学習課) 平良課長、平良青少年育成室長、久場主査、仲村主事、長嶺主事

学校教育部：武富部長、森田副部長

(教育研究所) 宮里所長、内間指導主事、仲宗根主幹、上原主幹、栗森主査

6 事務局職員

企画財務部(企画調整課)：仲本部長、上原課長、豊見山副参事、金城主査

7 傍聴人 なし

8 議事の経過 次のとおり

令和2年度 第1回 那覇市総合教育会議

令和2年11月25日(水)

城間市長 ハイタイ 本日は令和2年度第1回那覇市総合教育会議にお集まりいただきました。ありがとうございます。昨年度は「子どもの歯科口腔保健について」、そして「教職員の働き方改革について」ということで教育委員の皆さまからご意見を伺うことができました。今後の皆さまと那覇市の教育の方向性など議論を交わしながら、本市の教育の向上に努めて参りたいと思っておりますので、ご挨拶方々、お願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

それでは協議の前に会議録署名者を指名いたします。今回は喜屋武裕江委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。先ほど、司会からありましたように本会議は4時までということで、時間が限られておりますので時間を有意義に使いたいと思います。早速ではございますけれども、協議に入りたいと思います。

本日は「第3次那覇市教育振興基本計画(素案)について」、協議を進めて参りたいと思います。はじめに第3次那覇市教育振興基本計画(素案)の概要について、説明をしていただき、その後、今回は計画(素案)の中から2つのテーマについて、意見交換をしたいということでございます。まず生涯学習部総務課より計画(素案)について、説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

生涯学習部 ～ 第3次那覇市教育振興基本計画(素案)について ～

(総務課) (1)「第3次那覇市教育振興基本計画(素案)の概要」

＊概要説明は省略

城間市長 ありがとうございました。ただいま、説明がありましたけれども、策定されます「第3次那覇市教育振興基本計画(素案)」が「第5次那覇市総合計画」の部門計画としても位置づけられて、那覇市の教育及び文化の振興に関する大綱との整合性も図られているところです。これまで以上に教育行政の様々な課題や展望について、共通認識を持ち、お互いに理解を深めながら引き続き連携を図って参りたいと思っております。さて、ここままで、ご質問等、ご意見等ございますでしょうか。本仲委員、どうぞ。

本仲委員 事務局の説明の中では、これまでの振興計画と違ったところが説明されていなかったもので、もう少し説明していただければ、ありがたいなと思います。第2次と変わったところですね。

総務課 第2次から第3次で変わったところとしては、まず、教育の理念ですとか、教育の目標というものは変わりませんので、コンセプトの方向性については、第2次のものと、それほど、大きく変わるものではありません。ただ、構成の段階で変わったものとしては、例えば計画の最初の部分に「はじめに」という部分を付けたこと、また、読み手が読みやすくなるように注釈の部分を付けたこと、そういった部分が大きく変

わった部分となります。

本仲委員

はい、分かりました。

城間市長

ほかにございますか。本仲委員、どうぞ。

本仲委員

今、事務局の方から「第3次那覇市教育振興基本計画について」と、第2次との違うところを説明していただきましたが、私達も教育委員会の中で、この策定に、何回か関わっていく中で色々と意見を述べさせていただいたんですけれども、今回、説明がございましたように「はじめに」という部分が出てきたこと。私達は本を読むときには、大体、「はじめに」というところは、必ず目を通すところですね。ですから、どういうことが書かれているのかなと読みましたら、かなり詳しく、これから5年間の計画は、こうなるだろうというような内容が「はじめに」の部分で書かれておりまして、非常に良くできているなというふうに思いました。それから脚注を入れたところは、私達、教育に関係する者は、いわゆる教育に関わっているものしか理解できないような用語がたくさん出てくるわけですね。ですから、例えば、チーム学校とは何かとか、小中一貫教育とは何かとか、いわゆる専門用語的なものは脚注を入れた方が良いでしょうというように申し出たところ、これも綺麗に入っておりまして、初めての人達でも、かなり読みやすい、あるいは、分かりやすい基本計画になっているなというふうに感じました。この辺については事務局のご苦勞に、大変、感謝をしたいと思います。以上です。

城間市長

ありがとうございます。この部門について、予定していた時間にはなったのですが、ほかに、どなたか、ご意見、ご質問がありますか。先へ進めてよろしいでしょうか。

全員

異議なし。

城間市長

ありがとうございます。教育委員の皆さま方にもご苦勞いただきました。ありがとうございました。

それでは次に進みたいと思います。教育振興基本計画の中から具体的に2つのテーマに絞って、意見交換をして参りたいと思います。まず、1つ目の「計画案における協議テーマ」としてICTを活用した学校教育(GIGAスクール構想の実現)についてでございます。ICTを活用した学びにつきましては、コロナ禍の中、整備を前倒して、国の補助金を活用して、児童生徒に1人1台のタブレットの整備を実施するところでございます。そのため、学校現場での活用推進や研修等が今後大事になってくると考えられます。コロナ禍において、子ども達の学びの保障のためのICTの活用は、これまで以上に重要で欠かせないものとなってくると考えております。そういう意味でICT活用の今後の展開等について、意見交換をして参りたいと考えております。それでは学校教育部教育研究所より説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

学校教育部 (2)「計画案における協議テーマ」

(教育研究所) ①「ICTを活用した学校教育(GIGAスクール構想の実現)」

＊概要説明は省略

城間市長 説明が終わりました。ただいまの説明を受けて「ICTを活用した学校教育」について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。委員の皆さま、いかがでしょうか。平良委員、どうぞ。

平良委員 先ほど、学校の先生の方が、個人的に動画を作って配信したということですが、そういう個人の先生が作られたものを、同じ学校ではなくて、他の学校からもアクセスして、それを参考にするようなシステムのものは、お考えでしょうか。

城間市長 教育研究所、どうぞ。

教育研究所 動画の掲載に関しましては、ホームページ上に、アドレスやQRコードを貼っていますので、どの学校の先生方、また、保護者からも閲覧できるようになっております。これを見て、また、各学校の方で、自分達の学校のホームページ上にも同じように動画のほうを公開しようということで、24校がコロナ禍対応時に動画のほうが公開されておりました。

平良委員 ありがとうございます。

城間市長 お互いに、情報を共有し合って、学び合っている教師の姿も見えてきているということですね。ほかにいかがでしょうか。仲本委員、お願いいたします。

仲本委員 先日も、PTAの方からの提案が出たはずなんですけれど、このコロナ禍において、学校に通えなくなったということで、保護者の方も学習の遅れというのが、すごく気になる場所であって。それに対してGIGAスクールがあればという思いはあるんですけれど、学習の遅れ、学習支援ということ以上に、例えば、小学校1年生、入学したばかりのお子さんとか、どんなお友達がいるのかな、どんな先生がいるのかなとドキドキしながら入学して来る、あの時期に休校があったということで、保護者の方も、他の保護者ともつながれないような保護者もいて、このコミュニケーションを双方で取れるというところで、そういうところも期待したいというところですね。双方向で、リモートで使えるように、今後、もし万が一休校とかということがあった時に、そういうのも、この計画の中で、しっかり支えていただければと思います。

城間市長 教育研究所、いかがですか。

教育研究所 お答えいたします。現在、Wi-Fi環境が無いご家庭の調査をいたしましたところ、大体、2800世帯がWi-Fi環境が無い世帯ですので、モバイルWi-Fiルーターというのがございますので、それを世帯に貸し出しする予定でございます。今年度においては、緊急事態のコロナ禍でありますので、通信費も含めて対応したいなと思っておりますので、それには充分対応できるのかなと思います。また、現状を見て、台数をどうするかとか、対応をどうするかというのは、研究していきたいと

思います。以上です。

城間市長 よろしいですか。

仲本委員 はい。

城間市長 ほかにいかがですか。喜屋武委員、お願いいたします。

喜屋武委員 この度の、那覇市のG I G Aスクールに関する、ハード面の多額な予算と市長をはじめ那覇市の皆さんの素早い対応にすごく感銘を受けております。先ほど、説明がありましたように、今年度でハード面が整備されるということで凄く安心しました。ここから、共有とお願いもあって、文部科学省がG I G Aスクールというハード面を普及していきましょう、整備していきましょうという部分なんですけれど、中身の部分に関しては経済産業省が「S T E A Mライブラリ」というのを来年4月から行います。経済産業省が構築するネットワークの中に、文部科学省でいう教科横断型が、経済産業省で言うと、分離融合と言うんですけれど、一つの事象を算数とか、文化とか、理科とか、サイエンスとか、そういうふうに分離して、物事を見るというのを映像ライブラリができるようです。経済産業省の方では「未来の教室」というのが3年前から実証実験がスタートしています。その中の一部が、先ほどの「S T E A Mライブラリ」なんですけれども、今、J A Lさんとか、シャープさんとか、自社のテクノロジーとかを、子ども達の探求型学習のために、教科を色々組み合わせた取り組みをしているのですが、沖縄から私の方が、今、関わらせていただいております。名だたる企業さんの中で、沖縄の小さな会社で、参加をさせていただいているんですけれど、教材を、首里城と、チョコレートを教材に、小学生から高校生までの教科を行っています。首里城が世界遺産であったり、今回、火事で焼失したことによる消防士さんのインタビューであったり、燃焼の仕組みであったり、文化財としての価値であったり、そこから少数意見の皆さんの意見をどう汲み取っていくか、後、まちづくりに関わる首里地区の皆さんの様子とかというのを、マスコミの方々とコンソーシアムを組んでエントリーしたところ、採択されて、今準備中です。先ほどの説明にもありましたように、今、子ども達は文部科学省のデジタル教材を使って授業を行っていくということがありました。ここからお願いなんですけれど、また、那覇市独自の教材というのも、是非、企画課や経済部のみなさんと連動して、今後、作成していくというのも、子ども達もアイデンティティを育むとか、自分達の、地域の自己肯定感を育てていくためにも、地域のことを知ることが、すごく大事だと思っています。私も、今、経済部の中小企業振興審議会の委員をしておりますので、是非、教育委員会だけではなくて、那覇市全体で、次世代の子ども達に、那覇市の良さとかを、授業でできるような取り組みをしていきたいなと思っています。この「S T E A Mライブラリ」も実は45分～50分の1コマの指導案を、今、8コマ分作っています。首里城だけで8コマ授業ができるように指導案と副教材のワークシートとかを作成しながら、先生方がどうやっ

て、この映像ライブラリを授業にできるのかというところまで、計画して作っていくというところですよ。また、でき上がりましたらご案内させていただきます。小学校で配っている紙媒体、「わたしたちの那覇」という副教材も、是非、少しずつでいいのでデジタル化ができるような動きをしていただけたら、子ども達のためにもなるのかなと思っています。是非よろしくお願いいたします。

城間市長 ご意見と良い情報をいただきました。ありがとうございました。担当者、いかがですか。

教育研究所 今、喜屋武委員からお話がありましたように、やはり首里城がこのように、残念なことがあったんですけど、今、再建に向かって、子ども達、また、県民が一体となって志を一つにしてふるさとを、また復興するということで、今、取り組んでいると思います。子ども達のやはりふるさとを大切に未来に向かって羽ばたく、世界に羽ばたく、那覇市の子ども達を育成するために、是非、また、ご協力、協働で一緒にやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

城間市長 ありがとうございました。田端教育長、どうぞ。

田端教育長 補足でよろしいでしょうか。来年度からGIGAスクールを本格的にやるということで、教育委員会で頑張っているところであります。1人1台端末ということで、今までかつてないような教育の改革になるんじゃないかなという期待と不安が入り混じっているところです。ですけれども、やはり、その中心的な担い手となるのは教員だということです、間違いなく。ですので、やはり教員研修というのを、教育研究所のほうでしっかりステップを踏んで、やっていくということは、大変ありがたいことだなというふうに思っています。是非とも教員の、このICTの力量を高めていきたいなというふうに考えています。今、各学校には、このICTに興味があるとか、力があって頑張ってやってみようという教員が何名もいるわけですね。今の取り組みでも、先ほどの松川小学校の理科の先生のように、ユーチューブで公開している方々もいますので、是非とも、そういう方々の取組みを後押しして、できるだけしっかり頑張ってもらいたいということで、今日、校長連絡協議会が終わって、校長先生方には、しっかり後押ししてほしいと、お願いすることができました。そういう取り組みをやることによって、来年4月からは、端末が揃って、GIGAスクールが始まった時に、スムーズに入っていけるのではないかなというふうに考えているところであります。また、併せて、先ほど、研究所の内間指導主事より説明があったように、タブレットを使うことが目的ではなくて、授業の中で、授業の目的がしっかり達成できるようにタブレットを使うという話がありました。正に、そのとおりですね。ということは、先生と生徒との間のやり取り、仲本委員からもコミュニケーションということがありましたので、それも少しずつしながら、スタートしていくということで、一番大事なことは、先生方の取り組みだろうなというふうに思っていますので、これからも教育

研究所もしっかり計画を立てていますので、私達教育委員、市長はじめ後押ししていただいて、来年度から大きな予算のついたタブレット、GIGAスクールが軌道に乗って、那覇市の子供達のために大きくやっていけるように進めていきたいなというふうに考えているところであります。コンテンツの提供というのは、非常にありがたいなというふうに考えています。

城間市長 本仲委員、ご意見ですか、どうぞ。

本仲委員 今の、田端教育長のご意見に関連してですが、やっぱり、機器の扱いとかには、得手、不得手というのがあるわけですね。例えば、私も学校現場にいる時に、パソコンに強い教員がいて非常に助かったわけです。パソコンが動かないという時に、そういった方が何か操作すると動いてくれるわけです。学校の中に、こういう教員が1人でもいらっしゃると職員研修もかなり充実してくると思いますので、この辺の、田端教育長、人事配置ですね。この辺を検討されてお願いしたいなと思います。

田端教育長 是非、ICT機器に強い教員を各学校に配置、育てていけるように、教育研究所と共に頑張っていきたいなというふうに考えております。ありがとうございます。応援、ありがとうございます。

城間市長 実は、私もそういった内容で、田端教育長に話をしたところです。人材というのはどこの、どの場面でも、子供達の中を育てるだけじゃなくて、お互いに教員を育てるという意味でも必要なことですね。

田端教育長 子供達に負けないように頑張りたいなと思います。なによりも子供の方が先ですね、やはりそういった世の中に生まれていますので上手なんですね。スマホにしても、タブレットにしてもですね。それに負けないように大人も頑張りたいなと思っています。

城間市長 教育研究所、どうぞ。

教育研究所 先ほどの世帯数について、モバイルルーターは、約2300ということで訂正をよろしく願いいたします。「約」ということで、約2300世帯ということで訂正をお願いいたします。

城間市長 本仲委員、どうぞ。

本仲委員 今、こういうふうなGIGAスクール構想で、今後、学校の様相がどのように変わっていくのかなということで、ちょっと期待をしながら心配もしているんですけども、特にオンライン授業の中で、ちょっと触れていたんですけども、教科などの学びの場だけではなくて、特別活動の面でも色々な活用が広がっていくんじゃないかなと思うんです。ここにあるように、例えば健康観察、子供達は調子が悪くても、なかなか言えないけれど、いわゆる、双方向であるならば、子供達の本当の気持ちが分かるというように、こういうところでも変わってくるだろうなと思うんですよね。ただ、低学年辺りでは朝の健康観察の時に先生が児童の名前を呼んで「誰々さん」、

子どもが「元気です」、「誰々さん、元気です」という答える場面がありますよね。この辺がなくなるのかなと思うとちょっと寂しいなという気持ちがしますね。だから各学年の発達段階に応じた、学年段階の元気さが、このGIGAスクールも合わせながら見られるような工夫ができると、大変嬉しいなと思いますね。

城間市長

時代はアナログからデジタルへと言うけれど、やっぱりアナログの部分も大事にしたいという場面がありますよね。具体的に、今のようなことも当たるのかなと。コミュニケーション、顔と顔、Face to faceで声をかけあって得られるもの、そういった体験も子ども達にはやってもらいたいなと。これはアナログ部分になっていくのかなと思うんですけども、教育の場面では、大事になっていくのではないかと思います。目と目を合わせて話をするとかという場面も大事にしながら、必要とされる技量とか、技術とか、そういったことを会得していけるように、思考を伸ばすといったところに使っていただけるようなGIGAスクールになれば、ありがたいですね。ほかに、いかがでしょうか。先に進んでよろしいでしょうか。よろしいですか。

全員

異議なし。

城間市長

それでは本件につきましては、事業を進める上で、いただきましたご意見を参考にさせていただくことといたします。課題も沢山ありますけれども、引き続き本事業に一生懸命取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは協議事項①について、以上で終わります。

次に②に移りたいと思います。「学びや育ちの拠点となる学校」ということです。まずは説明を受けます。生涯学習部、よろしくお願いいたします。

生涯学習部

②「学びや育ちの拠点となる学校」

(生涯学習課)

*概要説明は省略

城間市長

「学びや育ちの拠点となる学校」について、その中から3点の事業について、説明がありました。委員の皆さま、ご存知だと思うんですが、那覇市では「校区まちづくり協議会の立ち上げ」、それを重要施策として進めているところでございます。教育委員会とも、このような形で一緒に進めていくところではありますけれども、今回の計画策定にあたって、更に皆さま方から、ご意見等を伺い、参考にさせていただきたいと思います。それでは、ご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。仲本委員、お願いします。

仲本委員

「青少年旗頭事業」についてなんですが、私は去年まで城岳小学校のほうでPTA会長をしていたんですけど、城岳小学校の旗頭は、確か10年位前ですかね、旗頭フェスタの最初の頃は参加もしていて、ちゃんと子ども用の旗頭も学校の方に備えているんですけど、その当時は旗頭をクラブ活動に位置付けて地域の方も呼んで指導していただいて、何とか参加していたんですが、やっぱり地域の中に、その旗頭という文化に親しみのある保護者がいなくて、要するに文化としてこの地域に根付いてい

なかったものですから。協力していただける保護者、また、興味を持って参加する児童というのを集めるのにだいぶ苦労して、結局、尻すぼみ的になくなってしまったということで、その後も、それに少し興味のある保護者から、何とか旗頭できないかなという話があつて、何度か検討はしたんですけど、なかなかその気運を作るというのが、難しくてですね。元々、その地域の中で、恐らく小祿の方だったり首里の方だったりでは、地域のお祭りの中でも、小さなお祭りの中でも、多分、やっていらっしゃると思うんですけど、城岳小学校の区域の中には、そういうのも無かったので、やっぱり根付かせるのが、大変難しいなつて感じましたね。その憧れとか、そういうものが、やっぱり、なかなか、子どもの中で醸成するというのが、すごく難しかったですね。ただ、城岳小学校は大綱挽の西1番のチンク隊を児童が、城岳小学校で担っているということで、こちらの方は地域の方の努力もあつてかなり根付いていて、保護者の中でも、うちは西1番で今年は先頭、次年度は、また、ちょっと東の方が先とかっていう形で、ちょっと楽しみにしているところもあります。こちらの方は児童も集まるし、又、保護者も楽しみにして集まるというような形で根付いてはいるんですけど、これも根付くまでにだいぶ関係していた方達の努力があつて、何とか根付いたんですけど、やっぱり、この文化を地域に、元々ない文化を下ろしていくときに、かなり地域の熱意ある人材とか、そういうところに左右されるなと思いましたね。学校の先生方、教職員でこれを主導していくというのは、なかなか、ちょっと、何もないところからこれを立ち上げていくというのは、やっぱり、先生達も長くて3年～4年しかいらっしゃらないので、なかなか難しいことなんだろうなという感じはしました。どうしたら良いのか分からないんですけど、感想です。PTAをしていた中での感想です。

城間市長 それに対して、いかがですか。お願いします。

生涯学習課 旗頭事業ですね、既に14回開催しております。開始当初は50校前後で、割と学校数、また、参加生徒数の多い時代もあったんですけども、ここ4～5年は40校前後で、また、800名、900名前後で、徐々に少なくなっている状況でございます。今、仲本委員がおっしゃられるように、まず課題は、参加校、また、参加児童生徒数を増やすこともあるのですが、やっぱり地域の方ですね、仲本委員がおっしゃったように、地域の方を、いかに、この旗頭の主旨とか、目的とかを周知したうえで、関わっていただくかということが課題かなと思っています。また、学校の教職員にも、色々負担がある状況もございますので、その辺も課題だと思うんですけども、やはり、これ、学校の協力、また、児童生徒には旗頭の意味とか、そういったものを伝えていく、地域の方々に協力していただくうえでは、先ほどおっしゃったまちづくり協議会とか自治会、また、旗頭が、東、西、7地区ですかね。そういったところで、地域によって、ちょっと隔たりもあるようなので、その辺とも、連携して行きたいなと

思っているのですが、なかなか、解決策が。我々もできることはやっているのですが、その辺のお知恵をお借りしたいなど、考えております。

城間市長

この「やる気・元気 旗頭フェスタinなは」に私は初回から関わっているのですが、立ち上げの頃の歴史とかをお話しすると、今ある姿というのは、本当に素晴らしいなと思っています。文化というふうに仲本委員がおっしゃったのですが、正に文化としての位置付けになっていますね。スタートはそうではなかったんですね。生徒の健全育成から始まる、やんちゃな子たちがこのエネルギーをここに持ってこようということで始まったのが、スタートだったんです。それが最近、学校自体もそういうやんちゃさんが少なくなったというのがあるかも知れませんが、まさに価値観が変わってきて、これは文化として、伝統文化を大事にする地域の催し物でも発表するというところで、いろんな形で、ある意味、存在が揉まれて整えられてきたなということで、私は嬉しく思うのですが。仲本委員からありましたように、やはり、そこにも人材の偏り、あるいは、いないということもあって、参加できないという学校もあることを、事実としては承知をしているところです。教員の中にも旗頭の主がいて、作るところからやり始めた人材も、教育委員会にもいましたけれども。あるいは、おっしゃったように首里、小禄、久茂地というような所は、それぞれの旗頭の歴史もあるので、あちらからすると1人でも多くの人材を、この時期から育てていただければ、県外に行っても、戻って来て、青年としてやってほしいという、そういうつながりが、この人材育成のつながりがあるので、是非、この旗頭事業をそういう意味でも続けていきたいし、じゃあ、今の課題をどうするかという話がありましたように、それが校区まちづくり協議会というところで、また、知恵を出していただければありがたいですし、そうでなくても、小禄、首里から人材を派遣して、この時期に指導していただくとか、いろんな解決方法が出てくるかなと思うんですね。ですけど、やはり、「サァー頑張るぞ」というこの気持ちを、どこでどのように醸成していくかという課題ではあるかと思いますが、今、現実として、一旦今年は中止になったので、少し気持ちがトーンダウンしているかもしれませんが、この時期だからこそ「やる気・元気旗頭フェスタinなは」という、これを話題に、青少年育成事業として、総合教育会議で話題にすることで、火が付けばいいというふうに、私は願っているところです。課題は確かにあります。また、行事の精選等でこのフェスタの時に、運動会に出ないといけない、文化祭に出ないといけないということがあるので、今年はここでやりますという、行事予定を2月、3月に組む前に、教育委員会の方で発表できるようになると、そこを避けてということもやっていただけるのではないかと思います。だから、強制的なものではありませんが増えていけるように、令和元年度は前年度より増えました。そのあたりをどんどん増やしていければ良いのかなというふうに思います。来るのを座して待つのではなくて、こちらからも積極的に、教育委員会からもアプロ

一チをしていただければありがたいなと思います。どこに課題があるのか、その地域、学校の、ということを精査して、できる対応がこうやっていただければありがたいなと思います。ほかにいかがですか。

生涯学習課 令和元年度の日程についてですけれども、令和元年度は、12月頃にはセルラーのほうで確保できたので、それについて12月には各小中学校に、何月何日にセルラーでありますというようなことで周知して、なるべくこの日には、運動会なり学校行事ですね、そういったのは避けていただきたいというような趣旨も込めて、はやめ、はやめに周知しております。また、年度初めに校長会、教頭会で、時間を作っていただいて旗頭の事業説明も行っております。去年の6月頃に、青少協の会長と各学校長が、例年6月頃に懇談会があるんですけれども、そこでも時間を作って、パワーポイント等で、この旗頭の主旨とか、色々、写真を見せたりして、何とか学校の方も協力いただけないかなということで、動いてはきているところです。けれども、やはり、強制参加とはいかないものですから、その辺を、また、今後どうクリアするのかということを考えています。

城間市長 参加できない理由を、今、仲本委員の方から一例として挙げていただきましたので、そういうところには、先ほど申し上げましたけれども人材を派遣するとか、学校が本当にやりたいんだったらという、課題に対する対応の知恵を絞っていただけたらいいですね。田端教育長、どうぞ。

田端教育長 旗頭、仲本委員からも地域文化という話がありましたけれど、学校職員は4～5年で入れ替わりますので、地域の文化として育てていくことが大事だなというふうに考えています。そうなりますと、地域も今、既存の組織がある程度整っているところ、那覇市教委を軸にしながらですね、青少協とか、青年会があればいいんですけれども、そういうのが、青年会でなくてもある程度、大人の組織が揃っている所でなかなか旗頭が文化として形成されていない所、ちょっとずつですね、選んで、一つでも、二つでも、城間市長もおっしゃっていたように、アプローチをかけていくということ、やり続けていくということが大事な事かなと思います。今、小学校36校、中学校17校ありますけれど、全部がいっぺんにというのは難しいところがありますけれども、そのうち一つでも、できていないところから、一つずつでもできるように、地域文化として育てていく努力を頑張っていきたいなというふうに考えているところです。そのためにも、今、生涯学習課から3つの事業の話がありましたけれども、この3つとも関連させながら、活用していけるんじゃないかという気はするんですね。活動場所としての地域連携室の活用もできるわけですし、学校との連携も地域学校協働活動とか、それを私達が頑張って、まちづくり協議会の中でも絡ませながら、頑張っていきたいなというふうに考えています。

城間市長 3つの事業がありましたけれど、他の事業について、何か、ご意見、ご質問ありま

したらお願いいたします。本仲委員、どうぞ。

本仲委員 12ページの「管理運営自動化の実証実験の状況について」、これ非常に良いんじゃないかなと思うんですよ。だからモデル校だけじゃなくて、できれば、全校にやってもらいたいというふうに思うんですね。いわゆる利用者のタイミングで活用できるというメリットがありますよね。それから、学校自体の職員の負担軽減ですね。それにもかなりつながるんじゃないかなと思いますね。ただ、デメリットで年配者が使いにくいってありましたよね。1回1回教えたなら良いんじゃないかなと思いますね。デメリットが2つあると言っていましたね。2番目はなんでしょう。

生涯学習課 もう一つは管理者側なんですけれども、このシステムによるものと、それから鍵での管理も必要になりますので、全ての利用団体が、このシステムを使わないと2種類になりますので、逆に学校側としては業務が煩雑になるかなということがございます。過度期には、全ての利用団体が、いきなりシステムというのが使えませんので、どうしてもこの二つの方法での実施になってしまうかな、という感じです。

本仲委員 この利用登録団体数が示されていますけれども、これは、数としては、多いんですか、少ないんですか。増えたんでしょうか。

生涯学習課 各学校とも、登録利用団体の9割の団体にシステムを利用してもらってますので、想定よりも多い団体ということで捉えられるかと考えております。

本仲委員 はい、分かりました。どんどん普及してほしいなと思いますね。

城間市長 要望ですね。それでは喜屋武委員、お願いいたします。

喜屋武委員 先程の旗頭の件も校区まちづくりの件も、企業さんをもう少し絡めていくということを考えていかなければいけないなというふうに思います。やっぱり教育委員会さんでは、なかなか、企業さんとか、各経済団体さんとかに、アプローチするのは難しいと思いますので、是非、市長部局と連携して、例えば中小企業家同友会って支部がたくさんありますし、経済同友会さんだと銀行さんとか、大手の企業が入っているので支店さんとか、そういうところを絡めるというのは、まちづくり協議会であったり、旗頭の例えば指導者の部分であれば、応援とかというのは可能かなと思います。私のほうでも、おもろまちを中心としました沖縄県から誘致された県外企業の皆さんの事務局をしているんですけれども、皆さん、那覇ハーリーに出るのが1つのステータスなんですね。県外の方とか、沖縄の支店長になられた方々は、那覇ハーリーに出ることが、大きなミッションなので、本当に練習もすごくされてます。その情熱を、是非、この旗頭フェスタとかにも繋げて、例えば青少協のみなさんから習って、各学校に行くとか、そういうところからスタートして、まちづくり協議会も関わっていただくというような、そういう流れを作っていくことも、先生方は異動しますし、地域住民の方々も、年々、年を重ねていきますので、そういう伝える側と、教える側の新陳代謝も含めながら、たくさんの人に関わってもらって続けていくというのも新しく文化だ

なというふうに感じました。

城間市長

生涯学習課、どうぞ。

生涯学習課

今、喜屋武委員から提言がありましたとおり、旗頭は関係機関、また、地域の方とか、子ども会、自治会、本当に様々な方の協力を得て成り立っている事業なんですけれども、今、おっしゃったように、まちづくり協議会なり、自治会なり、また、様々な企業ですね。最近では地域貢献ということで、色々と無償でやっていただけるということも聞いたことがありますので、この辺も、検討していきたいなというふうに考えております。

城間市長

ある小学校のまちづくり協議会の、立ち上げの時に、とても印象的な発言をする青年がいました。まちづくり協議会を作りたいという主旨説明を私が行った時に、質問と言って、怒りだったんですね。まちづくり協議会ができれば、いわゆる自分達が旗頭としてやるけれども、単体が、全部、吸収されて無くなってしまうというふうに勘違いしたと。いや、そうじゃないんですよ。おっしゃるように企業も、この地域にいる企業、学校、病院、何々、何って、それぞれの公の機関も、一個人も、みんな一緒にということです。旗頭だったら、旗頭をやっている方が入って、小学校区の何周年記念の時の話を例にしましたけれども、何周年記念ですと言って、買ってください、協力してくださいという声を、まちづくり協議会を出して、また、自分達の団体に持ち帰ってという、こういう情報交流、人事交流等々、やっていってこの地域を良くしていこう、そこには子ども達もいますということで、お話をしたら納得してくれたということがあったんです。ですから、今、おっしゃったように小学校区まちづくり協議会、閉じているものではないんです。ここに支店があったり、ここに住んでいたり、働くという人がいたら、情報をここに持ってきて良いんですよという辺りを、もっと私たち、いわゆる企業努力をしなくちゃいけなかったなど、お話を聞きながら思いました。そういうことをやりながら、徐々に増えて、後、何年かで全部というところで、ちょっと中断というようなことなので、今、いただいたご意見等、まちづくり協働推進課は、今日は参加はなかったんですけれども、是非、伝えたいと思います。伝えていきたいと思います。正に、そのとおりであります。ありがたいと思います。後押しになります。ありがとうございました。ほかにいかがですか。平良委員、どうぞ。

平良委員

今、城間市長のお話の中で、那覇市の方は、成人式の方は中学校区でやられているんですけれども、その成人式で受けて、彼らが頑張っている発表があるんですけれども、それを見ていると、やはり地域の方が関係してくるんですね。ですけど、中学校区になると、今言った小学校区の、このまちづくりが関わっているのが、少し、こう、希薄かなという感じがするので、その中学校区の、この校区内まちづくり協議会、各小学校の関係者も、そういう成人式の応援ということで、こう関わっていただけると、逆に地域の連携という形では、もっと良いのではないかなというふうに思います。

城間市長

小学校区で区割りをしたのは、重なりがあつて、那覇市の、いわゆる地図上、重なりが無いので、分けやすいということが、その中で民生委員児童委員の皆さんもこれに合わせていただき、色々な形で、36小学校区に合うような形で、あっちにも行つて、私はこっちから飛んで、あっちにも行かないといけないというのがあつたので、共有できるように、できるだけですね、100%は厳しいかも知れませんが、お願いをしたところですよ。確かに成人式は中学校区ですよ。小学校区でやるのはちょっとアレなので、中学校を卒業して5年になって戻ってくるので、その小学校区のまちづくり協議会の皆さんが、分担して、この小学校はA中、こちらはB中であれば、分かれて行つても構わないと思いますね。良いアイデアをいただきました。仲本委員、どうぞ。

仲本委員

この「地域学校協働活動推進事業」なんですが、今、大名小学校の方で、コーディネーターを置いて、モデル事業としてされたということですが、本当に、このPTAの中でも、地域の方と接している時にも感じるんですけど、何かやってあげたい、何か地域のためにやりたい、子ども達のために、何かやりたいというふうに、個人個人で思っていらっしゃる方は、結構いらっしゃるんですけど、どう参加したら良いのかが分からない、参加の仕方が分からない。また、仲間づくりが、一緒に志を持った人と、つながれないということもあつて、何かあれば協力はしたいんだけど、その参加する場が見つけられないという方が、やっぱり、いるなというのが実感としてあつてですね。こういう事業をしますよ、こういう形で幾らかの補助金もありますという形で、お金とか、そういう仕組みを作って下さるのは、とてもありがたいんですけど、やっぱりそこに、その地域を巻き込んでいく人の配置をしてくださると、これが一番大変で、人を巻き込んでいくというのが、本当に大変で、なかなかこうPTAもそうだし、学校の先生方もそうなんですけれど、今ある自分の、こう仕事なり、やるべきこと以上のことを、また、何かやろうと思うと、なかなか、その時間、マンパワーが大変なんですけれど、少しこうやって周りの力を巻き込む、そのコーディネートしてくれる方がいらっしゃるだけで、かなりスムーズに、いろんなことが行えるので、こういうキーになる方が地域にそれぞれいてくださると、とても、いろんなことが実現できるのかなと思います。こういう人員的な繋がり合っていくというようなところを、大事にしてくださるようなコーディネーターというのを配置していただける、この事業というのは、とても私としては期待が大きいところです。是非、大名小学校で成功してほしいなと思っています。

城間市長

コメントありますか。

生涯学習課

大名小学校では、今、「地域学校協働活動推進員」を1人、去年12月に配置しました。この方はPTA事務でもあり、また、まちづくり協議会の役員でもありますので、正にうってつけの方で、学校と地域をつなぐ役割、そういった人材を確保して、

今、スタートしたばかりであります。今実際、コロナ禍で、なかなか進まない部分もありますが、この推進員が学校の要望を聞いたり、また、地域の方々のボランティアを募集するなりして、今コロナ禍で、なかなか進まない部分もあるのですが、色々な情報を収集したり、他市の状況を色々見ながら、今後、この大名小学校を皮切りに、ほかにも展開できるような形で検討を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

城間市長 ありがとうございます。そろそろ、この件については、打ち切りの時間となりました。3つの事業の説明でしたけれども、皆さま方からいただきましたご意見を基にして、課題のご指摘もありました。進めていくことで我々も頑張っていきたいと思っております。引き続き、皆さま方の、ご理解、ご協力を賜りたいと思っております。担当課や、皆さま方から、本日いただいた、会議で出てきました意見や課題等々の指摘について、しっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。予定されていた協議事項は以上ですが、その他に入りたいと思います。その他として委員の皆さま方には情報提供、報告をさせていただきたいと思っております。

学校教育部長 ご報告いたします。月曜日の新聞報道の件に関して、ご報告いたします。この事案につきましては、平成25年11月に起きた事案となっています。この事案が判明して、教育委員会、学校で事実確認をおこない、本教育委員会で12月に処分するとともに、同月には県教育委員会に懲戒処分を内申し、翌年の3月に、この教員は懲戒免職処分となっております。事案発生後は保護者に謝罪し本生徒に対してはスクールカウンセラーを派遣するなど、本生徒に寄添い支援するとともに個人情報もしっかり管理しながら、学校もできる限りの対応をしております。3月の県立高校入試に関しましては、引率者に加えて生徒と信頼関係のある養護教諭を派遣する等、学校側は配慮しておりました。生徒は第1志望校に合格しており、高校入学後も養護教諭に高校生活について報告していたと聞いております。しかし、平成26年12月に自死というとても大変な結果となってしまいました。教育委員会としましては、二度とこのような痛ましい事案が起こらないよう、今後とも教職員の不祥事防止を徹底していきたいと考えております。以上でございます。

田端教育長 今、学校教育部長の方から報告がありました、琉球新報に載ってまして、教諭のわいせつによる部分、それから1年後の高校進学した後に自殺した事案がですね、大変哀しい、痛ましい事件で、最終的には、こどもの命を守ることができなかったことに関しては、大変、残念なことだと思っています。当時の学校としての対応は、できるだけの対応は行ってきたものと認識しています。私としては、今、できることとしては、二度とこういうことが起きないように、しっかり再発防止に努めていながら、子ども達をしっかり育てていきたいなというふうに考えております。大変、哀しい事案で言葉も出ないような状況であります。以上であります。

城間市長 その時、教育委員会に身を置いていた者として、今のような、今教育長から話がありましたように、教員に対する厳正な処分をしたと、また私達に課題を突き付けられたと、課題をいただいたように思っております。そういう意味では、これからも気を引き締めて、子どもの人権を、まず大事に考えて大切に考えております。その中で教員の肅正、綱紀肅正をしっかりと保っていくこと、今後とも、教育長からありましたように、対応させていただきたいと思います。新聞報道にありましたので、本日の那覇市総合教育会議で、その他として、皆様方にこういうふうに捉えていますということで、ご報告させていただきました。個人情報等もありますので、具体的なこと、守らなければならない部分もありますので、その点はお許しいただきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

 それでは、本会議、そのままで終了したいんですが、事務局の方から、何か、連絡がありますか。

事務局 事務局よりご案内いたします。今後、事務局にて議事録を作成し、市長、教育委員の皆さまにご確認をいただいた上で、ホームページのほうに掲載をいたします。事務局からは以上となります。よろしくお願いします。

城間市長 その他、連絡事項等ありますか。大丈夫ですか。丁度、時間ですので終わりますが、よろしいでしょうか。

全員 異議なし。

城間市長 ご協力いただいてありがとうございます。それでは「令和２年度第１回那覇市総合教育会議」を終了いたします。ありがとうございました。